



中近世における連体修飾語としての不定語の様相： 上方語の推移(二〇一三年度卒業論文要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2014-11-11 キーワード: 作成者: 水野, ひかる メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007462

中近世における連体修飾語としての不定語の様相

——上方語の推移——

国語学第二研究室　〇四九四　水野ひかる

本研究は、不定語の中でも、中近世の上方語における連体修飾語としての疑問・不定の事物・様子を表す語（「いかなる」「いかやうなる」「何たる」「どんな」「どのやうな」「何の」「どの」など）の様相を明らかにすることを目的とした。

本研究では、中近世の口語を反映した上方語の資料から対象語を抜き出し、地の文・会話文、文語文・口語文、敬体文・常体文、用法（疑問・詠嘆疑問・反語・不定・数量強調・曖昧）の違いで分類した。その後、使用実態の推移を考察した。

その結果、時代を通して見られた語の様相を明らかにすることができた。特に、口語文で疑問・不定用法として多用された「いかなる」「何たる」の詠嘆疑問用法への推移や、「何たる」の減少には、口語文で疑問・不定用法として江戸時代から用いられた「どんな」「どのやうな」が関係していると推測できた。

また、文語文における地の文・会話文を調査した結果、文章の説明・進行役の性質をもつ地の文には、疑問用法ではなく不定・数量強調用法の多用傾向があると推測できた。文語文・口語文、敬体文・常体文で用法を異にする語も判明した。「いかな」「どんな」「どのやうな」「いかやうな」「どの」は口語文での多用傾向があること、「いかなる」「いかやうなる」は敬体会話文において疑問用法の多用傾向があることも明らかになった。